

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 宗教名                   | キリスト教プロテスタント  |
| 信仰者人口                 | 約5億9千万人（2020年現在） <sup>1)</sup>  |
| 信仰者が多い国・地域            | ドイツ北部、北欧諸国（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、アイスランド）、イギリス、スイス、オランダ、アメリカ合衆国、カナダ、韓国、ナイジェリア、南アフリカ共和国、オーストラリア、ニュージーランドなど <sup>2)</sup> 。  |
| <b>文化社会的特徴</b>        |   |
| 1. 食文化のタブー            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に禁止されている食物はない。（飲酒や喫煙を禁じている教派もある。）</li> <li>イエス・キリストの言葉として、「口に入るものは人を汚さず、口から出て来るもの（人が発する言葉）が人を汚すのである」（マタイによる福音書：15章11節）と聖書に書かれている。</li> <li>・食前、食後に感謝の祈りを捧げる習慣がある。</li> <li>・菜食を主義とするセブンスデー・アドベンチスト教会の信者は、肉食全般を避ける傾向がある<sup>3)</sup>。</li> <li>・モルモン教（末日聖徒イエス・キリスト教会）では、アルコール類、コーヒー、紅茶、お茶、タバコの摂取が禁止されているが、モルモン教は教義の違いから一般的に、主流のキリスト教とは認められていない<sup>4)</sup>。</li> </ul>   |
| 2. 妊娠・出産に関する価値観・行動・風習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの教派で、避妊を禁止していない。</li> <li>・一般的に受精した段階で人間であると捉え、人工妊娠中絶は望ましくないとされているが、妊婦の生命に危険があるとき、レイプなどによる望まない妊娠をしたとき等については、認められる。国によって法律で中絶が認められる週数が定められているが、12～24週までが多い。</li> <li>・アメリカの福音派といわれる保守的な宗教右派では、人工妊娠中絶に反対し、同性愛、フェミニストに対しても反対の立場をとる。また、貧困層や子どもを一人で養育しているシングルマザーへの経済的援助等の自由主義的な福祉政策にも反対している。その理由は、伝統的な家族を作っていることの妨げになるからと主張している。一方で聖書を新しい視点から解釈し、女性やセクシャルマイノリティに対して擁護的な立場を取るフェミニスト神学という福音派とは対極にある考え方もある<sup>5)</sup>。</li> </ul> |
| 3. 育児に関する価値観・行動・風習    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもたちは主の賜物（詩篇：127章3節）」として尊ばれ、大切に育てられる。</li> <li>・幼児洗礼について：洗礼とは、キリスト教を信じることを告白し、キリスト教信者となるための儀式である。バプテスマとも言う。カトリックでは、親の信仰に基づいて幼児に洗礼を施すことが奨励されているが、プロテスタントでは、子どもの自己決定能力が確立してから入信させるべきという考え方から、幼児洗礼を推奨しない教派もある。また、幼児洗礼を認めている教派では、ある程度の年齢に達し、自ら信者となることを決意した時点で「堅信礼」を行い、正式な信徒として受け入れている。ちなみにプロテスタントでは、カトリックのような洗礼名はない。例外として、聖公会等では、洗礼名がある<sup>6)</sup>。</li> </ul>  |
| 4. 高齢者に関する価値観・行動・風習   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書は人間が齢を重ねる事の意味について、様々な箇所で言及している。高齢は神の祝福の表れのひとつの形であり（箴言：10章27節）、高齢者を敬うことは神の命令である（レビ記：19章32節）。また神は高齢者に対し、若い者を教える責任を与えている（テモテへの手紙一：5章4節）。さらに、高齢者を敬うと同時に、高齢者に対して「私たちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい」（ペトロの手紙二：3章18節）と高齢になっても日々努力し、成長することを促している<sup>7)</sup>。</li> <li>・教会では、日曜礼拝の際、家から重い聖書を持参することが困難な高齢者に、聖書の貸し出しをしたり、礼拝中に起立を求める場面でも座ったままで良いとする等、配慮がされる。</li> </ul>   |

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動・風習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気や障がいに対する考え方：新約聖書には、イエス・キリストが視覚障がい者や「重い皮膚病」患者（ハンセン病患者等を含む）に対して癒しを行う場面が随所にある（マタイ：8章1－4節，マルコ：1章40－45節，ルカ：5章12－16節）。当時これらの人々はいずれも穢れた存在とされ、社会から疎外された人たちであった。イエスは、そのような人たちに声をかけ、病んだ人の額に両手をあてる等の行為によって癒しを行っている。これに倣い、病者や障がい者を差別したり、避けたりすることなく積極的な支援を行っている。</li> <li>・医学的治療について：どの教派も医学的治療としての輸血を拒否することはない。輸血を禁止しているのは、「エホバの証人（ものみの塔）」という1870年代にアメリカで設立された新興宗教団体であり、正統なキリスト教とは認められていない<sup>8)</sup>。</li> <li>・友人や知人が病気や困難に直面していることを聴いたときには、「お祈りしています」と言い、実際に病人の早期回復等を神への祈りの際に加える習慣がある。</li> </ul>  |
| 6. 終末期・葬儀に関する価値観・風習        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・死生観：死は、「召天」と言われ、聖書の教えに基づく信仰と神の恵みによって、神のもとで永遠の命を与えられるものと考えられるため、死は終わりではなく、悲しむべきことではないと捉えている。臨終に際し（あるいは亡くなった直後に）、牧師を呼び、家族とともに祈りを捧げ、聖餐式（パンと葡萄酒を授けること）を行うこともある<sup>9)</sup>。</li> <li>・プロテスタントの葬儀：崇拝の対象は神のみなので、葬儀の際に遺影を祭壇の中央に飾ることはしない。また、遺体、遺骨を礼拝の対象にはせず、神に対してのみ手を合わせて祈る。祭壇には花を飾り、遺影には黒いリボンは付けない。通夜にあたるものは、前夜式と呼ばれる。</li> </ul>   |
| 7. 服装に関する価値観・行動・風習         | <p>服装についての禁止事項は特にないが、教会での礼拝の際には、礼拝にふさわしい服装を心がける。</p>  |
| 8. その他の文化・風習               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・偶像崇拝の禁止：聖書の教えのみに従うプロテスタントでは、人の手による銅像や絵画などを拝むことを禁じている。また、お札やお守り（十字架のペンダントやロザリオなど）を身に付ける習慣はない。</li> <li>・カトリックと異なり、聖母マリアを崇拝することはない。</li> <li>・十字を切ること（神に祈るとき、手で胸の上に十字形を描く行為）を、一般的にプロテスタント信者は、日常生活の中で行わない。</li> <li>・「主の祈り」：定型文としての祈祷をほとんど持たないことが多いが、その中で「主の祈り」は、イエス・キリストが「祈るときは…こう祈りなさい」と言って弟子たちに与えたとされる祈祷文であり（マタイによる福音書：6章6-15節、ルカによる福音書：11章2-4節）、教派によって文章や訳文の違いはあるものの、ほとんどの教派で正統な祈祷文として認められている。礼拝の中で、また日々の生活の折々に、この「主の祈り」を唱える<sup>10)</sup>。</li> <li>・年間の重要な行事：年間で最も重要な行事は、キリストが生まれたとされるクリスマスとキリストがよみがえった復活祭（イースター）である。クリスマスは、毎年12月25日と決まっているが、イースターは「春分の日の後の最初の満月の日の次の日曜日」と定められているため、毎年3月下旬から4月のいずれかの日曜日になる。イースターには、「生命と復活」の象徴として色づけされたゆで卵（イースターエッグ）を作って食べる習慣がある。</li> <li>・プロテスタントでは、礼拝を司式し、信徒の教育も行う役職を「牧師」という。牧師は結婚することを認められている。また、教派によって女性が牧師になることも認められている<sup>11)</sup>。</li> </ul> |
| 9. その他                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロテスタントとは：マルチン・ルターの宗教改革によって、カトリックから分離したキリスト教であり、新教とも言われる。中世のキリスト教は、社会の中で富や権力と癒着したり、本来の信仰の精神から逸脱したりした面もあった。これに対して聖書の教えに基づき、正しい信仰に立ち返ろうと訴えたのがマルチン・ルターによる宗教改革であった<sup>12)</sup>。</li> <li>・その後、当時の政治や民族の抗争などが絡んで、結果的には教会分裂と混乱が生じ、様々な教派（ルター派（ルーテル教会）、聖公会（イギリス国教会）、改革派・長老派、会衆派・組合派、バプテスト、メソジスト、ペンテコステ派など）に分かれていった。プロテスタントは、カトリックのようにローマ教皇を頂点とした一つの組織ではなく、様々な教派の総称である。そのため、プロテスタント全体としての信者数の把握等は困難な面がある。</li> </ul>   |

|        |  |
|--------|--|
| 10. 出典 | <p>1) Britannica. List of religious populations. Populations of world religions in 2020 with sects. <a href="https://www.britannica.com/topic/List-of-religious-populations">https://www.britannica.com/topic/List-of-religious-populations</a></p> <p>2) 世界各国の宗教(2017年～20年) . <a href="https://honkawa2.sakura.ne.jp/9460.html">https://honkawa2.sakura.ne.jp/9460.html</a></p> <p>3) 八木谷涼子. なんでもわかるキリスト教大事典. 2012年. 朝日新聞出版.</p> <p>4) 八木谷涼子. なんでもわかるキリスト教大事典. 2012年. 朝日新聞出版.</p> <p>5) 小原克博. キリスト教世界の女性たち-宗教右派からフェミニスト神学まで. 東洋学術研究. 2002 ; 41(1):87-106.</p> <p>6) 八木谷涼子. なんでもわかるキリスト教大事典. 2012年. 朝日新聞出版.</p> <p>7) 岡村直樹. 時代を見る目155 歳を重ねることの意味(2)高齢者と成長. 月刊いのちのことば. 2007年8月号. <a href="https://www.wlpm.or.jp/inokoto/">https://www.wlpm.or.jp/inokoto/</a></p> <p>8) MARO (上馬キリスト教ツイッター部) . 上馬キリスト教会ツイッター部のキリスト教って、何なんだ?-本格的すぎる入門書には尻込みしてしまう人のための超入門書. 2020年. ダイヤモンド社.</p> <p>9) Christian Service Corporation. (人生の最高の旅立ち C.S.C.キリスト教の葬儀専門会社.) プロテスタントの葬儀の流れやマナー. <a href="https://c-s-c.ne.jp/">https://c-s-c.ne.jp/</a></p> <p>10) 八木谷涼子. なんでもわかるキリスト教大事典. 2012年. 朝日新聞出版.</p> <p>11) 八木谷涼子. なんでもわかるキリスト教大事典. 2012年. 朝日新聞出版.</p> <p>12) 日本福音ルーテル教会ホームページ. ルーテル教会とは. <a href="http://jelc-or.jp.check-xbiz.jp/about/about_lutheran/">http://jelc-or.jp.check-xbiz.jp/about/about_lutheran/</a></p> |
|--------|--|

担当者：飯村直子  
承認日：2025年2月18日